



現地校 (12)

日本の高校へ留学？

日本への帰国予定はありません。高校生の子どもはアメリカの大学に進学希望ですが、バイリンガルを目指しています。日本語と生活体験のために、日本の高校で1年間学ぶプログラムがあると聞きました。どんな子どもが、どんな目的で参加していますか？



日本の高校で1年間の寮生活。
日本の言葉と文化を身につけ、
レベルの高いバイリンガルに！

明德義塾「1年留学プログラム」

日本の高校に1年間留学後、現地高校を卒業してアメリカや日本の大学へ進学出来る明德義塾高校（高知県）の「1年留学プログラム」です。

スポーツで全国的に有名な、この学校では在校生の9割（約800人）が寮生として、教職員（家族）と共同生活をし、「師弟同行」の教育を受けています。

また、留学生（300人・日本の高校で最も多い！）向けの基礎日本語から、大学入試向けのレベルの高い国語まで、日本語・国語習得のための授業が提供されています。

Aさん：11年生・カリフォルニア

アメリカ人・日本人をご両親に持つAさんが、明德のプログラムを知ったのは、11年生の初めでした。

バイリンガルに育てたいというご両親の強い希望で、毎年のように、夏休みに日本に滞在していたAさんですが、「日本の高校生活を体験したい」と強く希望して、11年生の4月から8月の終わりまで、明德で学習・寮生活を経験しました。

日本語での日常会話には困りませんが、読み書きは小学校3年生程度。日本語クラスで特訓を受けると同時に、留学生と一緒に他の教科の勉強もしました。放課後の部活動では「和太鼓」を選び、他の部員と一緒に活動を楽しみ、和太鼓の大会出場を最後に、アメリカに帰国しました。

12年生の初めから現地校に戻り、アメリカの大学に入学中です。明德での経験で自信を得て、少なくとも1年は日本の大学で学び、卒業後は日米の橋渡しになるビジネス関係の職業に就きたいと希望しています。

B君：10年生・メキシコ

ご両親が日本人で、ロサンゼルス生れのB君はメキシコの高校の9年生でした。中学生の弟と一緒に「明德サマースクール」に参加し、そのまま留学生コースに入学しました。

部活動の見学で、重量挙げに出会いました。コーチに「少し挙げてみる」と言われて、初めてのリフト。そのコーチの「重

量挙げの才能がある！」の一言で入部。その後の3ヶ月間の上達ぶりがケタ違いに素晴らしく、周囲の期待と同時に、「日本のチャンピオン」と本人も自信が付いてきました。

「メキシコには大学が少ないので、アメリカの大学で」と計画していましたが、「勉強と重量挙げの両立を」との希望が強くなり、1年の留学を3年に伸ばし、日本の大学への進学も考え始めました。

C君：10年生・カリフォルニア

英語と韓国語のバイリンガルで育った9年生のC君は、3年前から、日本人のクラスメートの影響で日本文化に興味をもつようになりました。高校での日本語クラス・日本語学校・家庭教師にもついて、日本語・日本文化を学びました。

家庭教師から貰った明德のパンフレットを見て、C君自身が「明德へ行きたい」を強く希望しました。「最高の教育」と同時に「他の子どもと違う教育を」と考えていたご両親にとって、アジアの国々からの留学生が3割を占める明德のユニークさ、さらには韓国からの留学生も多く、C君が英・韓・日の3ヶ国語を身につける機会は魅力的なので、C君の希望通りに留学を決めました。

日本語での日常会話の苦労するC君でしたが、寮で同室のB君と英語で意思の疎通し、日本語のサポートを受けられるので、入学後3ヶ月で見違えるように日本語力が向上しました。同時に、寮生活を通して、挨拶・食事などの日本的なマナーも身につけ、「留学生が多く、楽しい」と明德での生活をエンジョイしています。将来の大学進学もチョイスが広がって、1年を3年まで伸ばすことも考えています。

多様な留学生と目的

明德の1年留学プログラムは、昨年から始まったばかりです。しかし、ここで紹介したように、多様な子ども達がそれぞれの異なった目的を持って入学しています。その子ども達に共通するものは、「日本の学校生活を通して、日本語・日本文化を身につける」目的です。

永住予定や長期滞在の日本人家庭が増えてきています。それらのご家庭のお子さんたちを「日本人に育てる」例として、ユニークなプログラムで学ぶ生徒を紹介しました。

松本 輝彦